

# インターフェロン療法を受ける 患者のセルフケアへの援助

5階西病棟

○岡村ゆかり・中岡 佐知・門脇 知香

川畑 明子・高橋 愛実・植松 明子

## I. はじめに

肝臓病の90%はウイルスによる肝炎でA, B, C, D, E型の5種類が知られているが、主として慢性肝炎、肝硬変の直接の原因となるのは、B型とC型で、慢性肝炎に占めるB型肝炎とC型肝炎の割合は、1:3~4程度と言われている。慢性肝炎は徐々に進行し、5~20年かけて肝硬変さらに肝臓へと移行する可能性が高く、早期に治療することが望ましい。そして肝炎の治療薬として現在もっとも期待されているのがインターフェロン（以下IFNと略す）である。

当病棟でのIFN療法は約2~4週入院し、以後外来での投与へ移行する形態を取っている。IFN療法は、多様な副作用が長期に続くため副作用のコントロールが重要になってくる。そのためには、患者自身が自分の健康に関心を持ち、健康の回復のために努力することが不可欠である。

今回私たちは、副作用のチェック表を作成し、入院中に患者が記入することで患者自身のセルフケア能力を高めることができるのではないかと考え実施し、その結果を稲岡氏のセルフケア概念に基づいて患者のセルフケア行動を分析したので報告する。

## II. 研究方法

1. 研究期間 平成6年6月24日から平成6年9月30日
2. 対象者 平成6年6月28日から平成6年9月30日までに入院し、IFNの連日投与を終了した患者6名。（資料1参照）
3. 研究方法
  - 1) 文献検索を行い、既存の研究を参考にして副作用チェック表を作成した。（資料2参照）
  - 2) 副作用チェック表をIFN投与開始日より患者自身に記入してもらい、表を利用できているか観察する。

### Ⅲ. 結 果

患者に副作用チェック表を記入してもらい、記録はできているか、表を記入することをどう思っているのか、表を用いて看護婦と会話できるか、という視点で観察を行った。その結果、副作用チェック表は自分の入院中の経過として退院時に持ち帰ることができることもあり、全例が毎日確実に記入することができていた。そのうちチェック表をもちいて看護婦に積極的に訴えることができた患者が4名、自ら訴えることはあまりなかった患者が2名だった。

R・Y氏は「日によって副作用の出方って変わってくるものですね、昨日は筋肉痛があったのに、今日は吐き気が出てきたり」など経過に添って表を指示しながら訴えることができていた。S・O氏はチェック表をメモがわりに活用し、その日の検査、他科受診、外泊などを書き込んでおり、IFN以外の検査や治療後の症状の訴えにも使用できていた。T・K氏は副作用の有無だけでなく出現、持続時間を細かく記入し、副作用の分析、コントロールを行っていた。また「今日はまだ大丈夫、夕方頃に坐薬を使うかも」など、表を使用して訴えることができていた。K・M氏は「表は帰ってからもつかえるし、自分のことだから」と言い、IFNの副作用の記入とともに、他科受診、検査、体重の記入を行い、表を活用して症状を訴えることができていた。T・M氏、M・M氏の2人はチェック表の記入、副作用に対するコントロールは行えていたが、チェック表を用いて記録した内容を自ら訴えることはあまりなかった。初日より38℃前後の発熱とそれに伴う悪寒、関節痛はほぼ全例に見られるが、チェック表に記入した各自の副作用の強さ、間隔に応じて氷枕、坐薬を使用する時期をおのおのつかんでコントロールしていくことができた。患者からは「症状の減少が目に見えるので表はわかりやすい」「持ち帰り今後も活用したい」「つけているうちにだんだんわかってきて、熱が上がりそうになったら測るようにした」という言葉も聞かれた。

### Ⅳ. 考 察

稲岡氏は『看護とは、看護者と対象者との心のふれあいを通し、対象者のセルフケアに向けて看護ケアを行うことにより、対象者が望ましい変化（よりよい健康状態・状況・成長）を遂げ、最終的には健康と関連する問題を自分で解決できるように援助し、自分で解決できない問題に直面したときは、必要に応じて必要な援助を申し出ることができるようセルフケア教育を行うことである』<sup>1)</sup>と述べている。

稲岡氏の解釈によるオレムのセルフケア理論に基づいて、セルフケア達成のための条件の

5項目を以下のようにあげ今回の結果を分析した。

### 1. セルフケア欲求の認識

I FN療法を受けるために入院してくる患者は必ず肝生検を行い、I FNの必要性を言われて、自分でもそれを認めているということでセルフケア欲求の認識はほとんどみだされていると思われる。

### 2. セルフケア欲求を満たす知識・技術

I FNの副作用には専門的知識で観察して行くもの（血液データなど）と発熱や食欲不振、筋肉痛など自己コントロールにより軽減できるものがあることを患者に説明し、副作用を記録させることでこれは自分自身の問題であり、誰かがしてくれるだろうという他人まかせの気持ちにならないように働きかけた。そのため、自分のことは自分でできるという自己確信ができたと考える。

### 3. セルフケアに向けての動機・決断

副作用とそのコントロール方法についての説明と、退院後の継続コントロールの必要性を指導したことが、セルフケアにむけて動機づけと決断につながったと思われる。その結果、全例の患者が入院中継続してチェック表の記録を行うことができた。

### 4. セルフケア達成に至る自主的行動とそれを維持するエネルギー

チェック表を記入する際に、患者は指定された記録だけでなく、その他の症状も書き込んでいくうちに、自分の副作用のパターンをつかみ、副作用の軽減方法を知るため医療者側へ相談するような自主的行動が見られた。

チェック表を記入したことで副作用の変化、症状の減少を目で見ることができ治療のはげみとなったと思われる。また、訪室時に看護婦が必ずチェック表に目を通し、声かけを行った事により患者は自分に目を向けられていると感じ医療者への信頼感が増し、不安の表出へとつながっていったと思われる。そのようなことが自主的行動を維持する心的エネルギーとなったのではないかと考える。

### 5. セルフケア過程での優先度のかかわる柔軟性と判断力

患者自身が副作用チェック表の記入を行ったことで、副作用出現のパターンを把握し、コントロールしていくことができた。このことから状況を見極め判断する能力と柔軟に対応する能力が養われたと思われる。

以上のように、今回の6例全例、5項目を満たすことができた。それは、私たちが、患者に副作用に対する教育を行い、副作用チェック表という教育の道具を提供し、その活用方法

を観察しながら継続していく為の援助を行っていったことから、導かれたものとする。今回は、全例問題なくセルフケアが達成された。しかし、セルフケアを妨げる要因としては知識の誤認、不安、恐れ、罪悪感、悲哀、医療者への不信感等がある。今回はなかったが、これらの要因を持つ患者に対しては、個別的な教育、精神的な援助が必要であり、今後はそれらのことも考慮し、援助していかなければならない。

## V. お わ り に

今回の研究の中で、セルフケアへの援助は一方的な援助ではなく、患者が主体的に行動を起せるよう援助して行くことが必要であるということを実感した。

今回は症例が少なかったため一応の成功は得られたが、評価が十分とは言えず今後も継続してセルフケアへの援助を行っていきたい。

## 引用・参考文献

- 1) 稲岡文昭：セルフケアの考え方とセルフケア能力のアセスメント，月刊ナーシング9(2)，P.32～35，1989.
- 2) 若島将伸他：慢性肝炎のインターフェロン療法とその適応，月刊ナーシング12(6)，P.16～19，1992.
- 3) 若島将伸他：インターフェロン療法の副作用とその管理，月刊ナーシング12(6)，P.26～27，1992.
- 4) 山田光子：慢性肝炎のインターフェロン療法と看護の役割，月刊ナーシング12(6)，P.28～32，1992.
- 5) 後藤真子：インターフェロン療法を受けC型肝炎患者の看護，月刊ナーシング12(6)，P.36～34，1992.
- 6) 矢ヶ崎智子：インターフェロン療法を受けるB型，活動性肝炎患者の看護，月刊ナーシング12(6)，P.41～43，1992.
- 7) 高野紀子：入院治療から外来治療へ移行するための看護のかかわり，月刊ナーシング12(6)，P.44～48，1992.
- 8) 橋本洋子：C型肝炎の自己管理の動機づけ，看護技術39(8)，1993.
- 9) 粕田孝行：セルフケアと看護実践，月刊ナースデータ15(1)，1994.

【資料1】

氏名	年齢	性別	病名	性格	学歴	職業	投与方法
R・Y	40	F	B型慢性肝炎	短気	大卒	家事手伝い	IFNa-2b600万単位を6日/週、2週間投与。退院後は3日/週を22週行う予定。
S・O	44	M	C型慢性肝炎	明るいかおらか	高卒	会社員	スミフェロン600万単位を4週間連日投与。退院後は3日/週を20週行う予定。
M・M	45	M	B型慢性肝炎	まじめ	大卒	会社役員	IFNa-2b600万単位を3週間連日投与。退院後は3日/週を22週行う予定。
T・K	36	M	C型慢性肝炎	まじめ	大卒	公務員	IFNa-2b900万単位を6日/週、2週間投与。退院後は3日/週を10～22週行う予定。
T・M	64	M	C型慢性肝炎	温厚	高卒	船員	ロフェロンA600万単位を4週間連日投与。退院後は3/週を22週行う予定。
K・M	47	M	C型慢性肝炎	短気	高卒	公務員	ロフェロンA900万単位を4週間連日投与。退院後は3日/週を22週行う予定。



	9	8時	7	6	5	4	3	2	1	0
関節痛	37.9℃ 関節痛あり									
筋肉痛										
嘔吐	○ 吐き気あり									
だるい	○ 倦怠感あり									
食欲なし	○ 食欲不振あり									
はきけ	○ 嘔吐あり									
頭痛, 頭重感	○ 頭痛あり									
不眠										
脱毛										
出血(鼻, 歯肉)										
その他	37.9℃ 関節痛あり 嘔吐あり 吐き気あり 頭痛あり 頭重感あり									
IFN	10:20	9:30	9:50	10:30	10:50	10:20	10:30	10:50	10:30	10:50
坐薬の有無	無	有	有	無	有	有	有	有	有	有
体温 (°C)	39.0	38.0	37.0	36.0	35.0					

	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
関節痛							
筋肉痛							
寒け							
だるい							
食欲なし		(無)					
はきけ							
頭痛, 頭重感							
不眠							
脱毛							
出血(鼻, 歯肉)							
その他	12時, 午前10時, 午後10時, 頭痛, 頭重感, 食欲不振	全身性腫脹, 鼻出血, 食欲不振	同上	同上	同上	同上	同上
IFN	10:20	9:30	10:45	10:30	10:30	10:00	10:00
生薬の有無	無	17:15	9/16 3:00	無	無	無	無
体温 (°C)	39.0						
	38.0						
	37.0						
	36.0						
	35.0						

6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30